

接着材料の性能を最大限に引き出す手法

岡山大学学術研究院医歯薬学域

歯科保存修復学分野・教授

吉山 昌宏

〈抄録〉

接着技術を応用したコンポジットレジン修復歯、歯質の切削量を低減できることから MI(Minimal Intervention)の概念を支えるものとして発展し、単純窩洞だけでなく大白歯の複雑窩洞への応用も拡大している。さらに接着歯科治療は、充填修復のみならず、レジン支台構造、接着ブリッジ、矯正用ブラケット接着、動揺歯固定、根管充填等の幅広い分野に拡大され、接着対象は歯質のみならず、セラミック(ジルコニア等)、金属などにも及んでいる。

国内においては、デジタルデンティストリーのメタルフリー修復の流れから、コンポジットレジンブロックによる CAD/CAM 冠が大白歯、前歯にまで保険適用が拡大している。その一方で、CAD/CAM 冠の脱落や破折などのトラブルも相次いで報告されている。CAD/CAM 冠修復やコンポジットレジン修復において、接着操作を行う際に生じる唾液や血液等による接着面の汚染は、化学的接着の接着阻害因子となり、接着材料の性能を低下させることが知られている。今回接着阻害因子の除去方法についてまとめて解説するとともに、最新の汚染除去材であるクラレノリタケデンタル社製カタナクリーナーについても紹介したいと考えている。

〈演者略歴〉

1957年 神戸生まれ

1987年 徳島大学大学院歯学研究科修了（歯学博士）

1994～5年 ジョージア医科大学 歯学部客員講師

2000年 岡山大学歯学部歯科保存修復学分野教授

2002年 岡山大学歯学部附属病院副院長

日本再生歯科医学会会長

2021年 岡山大学学術研究院医歯薬学域 医歯薬学総合研究科

歯科保存修復学分野教授および岡山大学病院歯科保存歯科部門長

（現在に至る）

〈学会活動〉

象牙質歯髄治療学会会長

日本歯科保存学会 理事

日本接着歯学会 理事

日本審美歯科学会 理事

日本再生歯科医学会 名誉会長・理事

岡山歯学会 理事